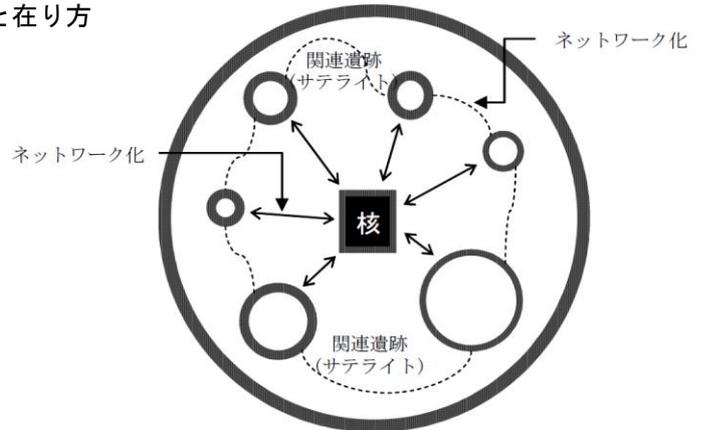


【資料】

平和・学習拠点形成によるまちづくりの推進に関する調査研究
 —館山市における戦争遺跡保存活用方策に関する調査研究—
 平成 15 年 3 月 (財) 地方自治研究機構／館山市

- 歴史資源等を活かした平和・学習拠点の可能性と在り方
 戦争遺跡活用を位置づけた館山市の目標像

地域まるごとオープンエアミュージアム
 館山歴史公園都市

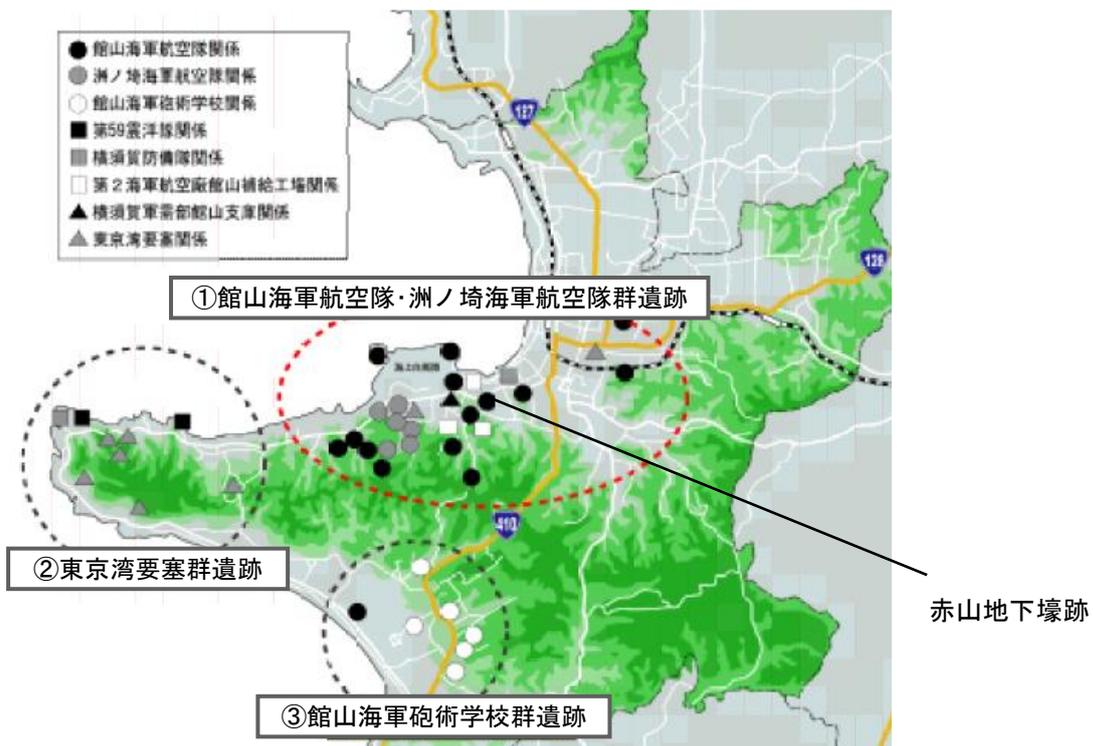
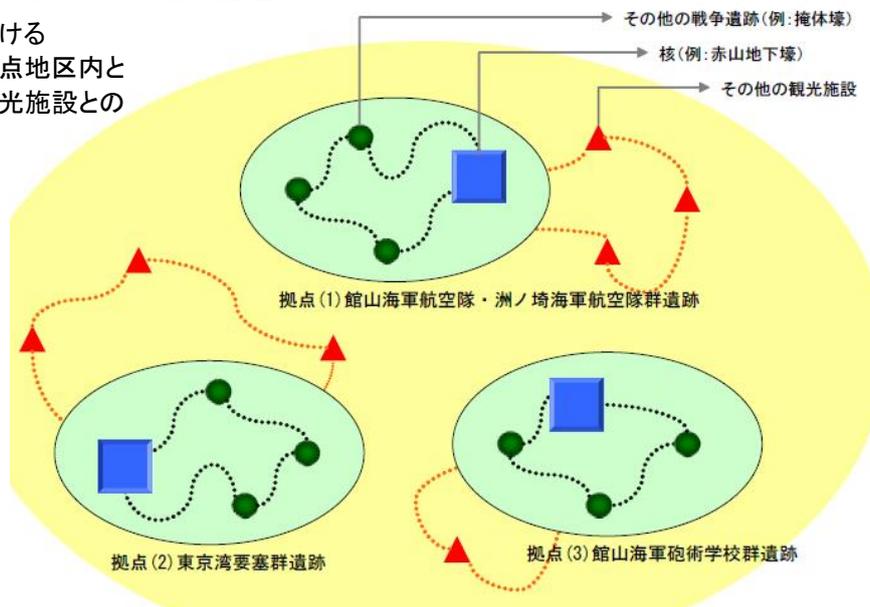


＜拠点の概念モデル＞

「核」(核遺跡・活用機能付加＝コア)と
 「関連遺跡・活用機能付加(サテライト)」
 およびそれらのネットワークで構成する。

＜拠点構成の考え方＞

- 3つの拠点で構成する
- 各拠点にそれぞれ核を設ける
- 資源のネットワークは、拠点地区内とともに、周辺地域の他の観光施設とのネットワーク化も行う。



● 基本的考え方

- 戦争遺跡の存在は、館山のそして世界の目から見たとき、太古からの歴史の中の大きな事象であり、まずは事実を正確に把握し、そして後世に伝えることが重要である。
- その上にたって、館山にとって戦争遺跡とは、歴史文化遺産の一つであるという位置づけを明確にする。
- また、目に見えるもの、見えないものを含め、館山市民が地域の重要な歴史文化資源として捉え、地域を知り、学ぶ資源として継承していく。

戦争遺跡を捉える視点は次のものである。

● 遺跡の視点

- ① 戦略、戦術、戦闘技術に関する視点
- ② ものを創る上での土木・建築的な技術に関する視点

● 遺跡の保存・活用の視点

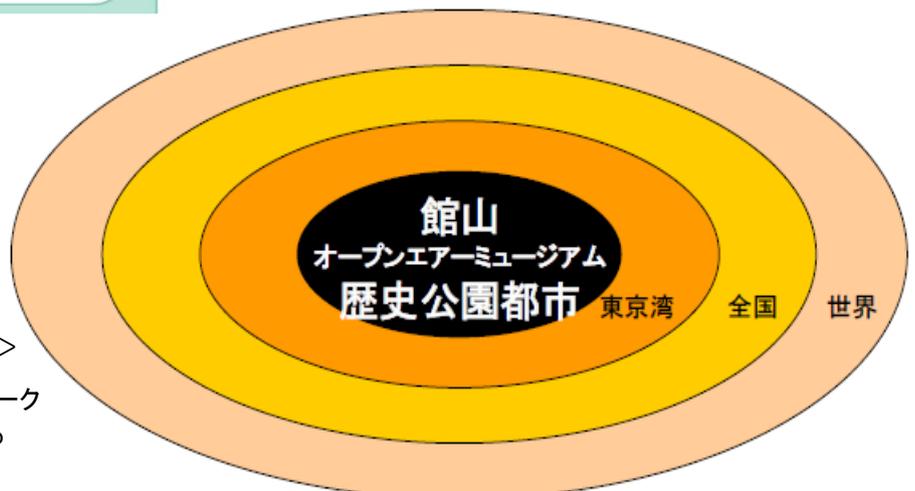
- ① 地域住民による保存・活用をどのように考えるのか
- ② 外から来る人にどのように見ってもらうか

これからの戦争遺跡の保存と活用を考えるためには、館山の戦争遺跡を一定レベルで悉皆的に調査し、国や県の評価基準とも照らし合わせた上で、物理的に保存すべき対象を明確にしていく。

オープンエアミュージアム

館山歴史公園都市

古代からの海の道文化、戦国時代の里見氏の文化、そして首都圏防衛の地としての役割を担った館山を“まると歴史公園”として捉え、館山の歴史文化性を市民が守り・育て、そして後世に伝えていくまちづくりを目指す。



< 広域における館山の位置づけ >

- 戦争遺跡の広域的なネットワークの中で、平和・学習を展開する一つの拠点として位置づける